

2023年2月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「緩やかに持ち直している」と、前回と同様の判断です。8か月連続の判断据え置きとしました。
- 需要項目ごとの判断も変更はありません。
- 雇用についても前回と同じ判断です。労働需給は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、1月、前年を上回りました。衣料品は、外出や旅行需要の回復を受け、防寒や旅行関連の身の回り品を含め、持ち直しが続きました。食料品は、値上げに伴う客単価の上昇等から、売上が増加しました。大規模店舗では、遠方客を含め、客足の回復が続いており、売上が増加しました。水際対策の緩和を受けたインバウンドの来店客増加から、免税品の売上も増えています。一方、家電販売は、需要一巡からテレビ、白物家電を中心に全体的に販売が減少しており、弱めの動きとなっています。
- 新車登録台数は、1月、軽自動車、除く軽とも前年を上回ったことから、合計でも前年を上回りました。合計は、2か月振りの前年比プラスです。メーカーからの完成車供給は、国内向け出荷の増加により、幾分改善がみられました。

販売地合いは、引き続き、堅調です。自動車ディーラーでは、新型車投入の効果もあって相応に受注を獲得できています。車の供給が大幅な改善には至っていない中で、受注残は高水準で推移しています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、1月、全ての空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。1月まで16か月連続の前年比プラスです。コロナ前の2019年水準を下回っていますが、旅客数は回復が続いています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、1月、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなり、これで35か月連続でゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、1月、前年を上回りました。地域差がみられているほか、全体でもコロナ前の2019年を下回っていますが、旅行需要が回復する中、水際対策緩和によるインバウンドの回復や「全国旅行支援」による下支えもあって、緩やかに持ち直しています。旭川市内のホテル客室稼働率も、1月、前年を上回りました。こちらもコロナ前の2019年の水準を下回っていますが、緩やかに持ち直しています。
- 各地観光施設の入込みは、1月は、ウトロ温泉が前年を下回った一方、旭山動物園、層雲峡が前年を大きく上回り、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーも前年を上回ったことから、合計でも前年を上回りました。コロナ前の2019年の水準を下回っていますが、観光需要の回復を受けて緩やかに持ち直しています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、1月、上川、オホーツク、宗谷とも前年を下回ったことから、全体でも前年を下回りました。2022年4月以降の累計では、宗谷が前年を下回ったものの、上川、オホーツクが前年を上回ったことから、全体でも前年を幾分上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、12月、持家、分譲が前年を幾分上回ったものの、

貸家が前年を大きく下回ったことから、全体でも前年を下回りました。月によって振れはありますが、基調としては、持家、貸家が減少している一方、分譲は横這い圏内の動きとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善しています。有効求人倍率は、12月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を上回りました。旭川、稚内、北見、網走の全てで1倍を上回り、全体でも1倍超えとなりました。1倍超えは20か月連続です。新規求人数は、12月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を上回ったことから、4つの職業安定所の合計でも前年を上回りました。コロナ前の2019年を上回っており、労働需給は、緩やかに改善しています。

■今後のポイント

- 当面は、値上げが続くもとでも客単価が上昇するなど、消費は堅調となっているほか、観光についても全国旅行支援などの需要喚起策による下支えやインバウンド需要の回復がみられており、全体として緩やかに持ち直していくとみられます。ただし、物価上昇が続く中で、消費者の節約志向が強まる可能性、感染再拡大のリスク、対面型サービス業における人手不足の影響など、引き続き、不確実性が高い点には留意が必要です。

今後、道北地域の経済をみていく上でのポイントとしては、①感染抑制と経済活動の両立が進むもとの観光、消費の動向、②物価上昇が消費や企業収益等に与える影響、③対面型サービス業における人手不足が消費に及ぼす影響、について注意を払いたいと思います。

以 上